

令和4年度京都市ひきこもり支援事業補助金事業実績

スタートアップ部門

京都市に居住するひきこもりの方や その家族のための支援事業（アガペー）

実施日

令和4年4月13日～令和5年3月30日

会場

JESUS IMAビル2階（中京区）

事業実績

当事者や家族のための生活支援を行う居場所を提供することを目的に、ポテンシャル引出型事業とセラピー相談事業を実施。

語学教室や料理体験、音楽等、様々なツールを用いて合計82回の事業を実施し、延べ398名を超える参加があった。

これらの事業を通じて相互交流の輪やネットワークが広がる中で、ひきこもっている方へアプローチする地域の支え合い機能の回復や、ともに生きる生活コミュニティを作ることができた。



第2回京都絵画公募展

Open Call for Hikikomori Artists

（特定非営利活動法人 若者と家族のライフプランを考える会）

実施日

令和5年1月17日～22日

会場

ギャリエヤマシタ2号館2階（中京区）

事業実績

社会から孤立しがちなひきこもり当事者が制作した作品を公共の場で展示することにより、社会参加のステップとなることを目的に公募展を開催。

当事者だけでなく、家族や支援者も対象として作品を公募し、

20名の作品を展示した。全出展作品を掲載した

リーフレットを作成し参加記念として送付した。

多くの方に来場いただけるよう、広く広報をし、また期間中に

KBS京都のニュースでも放送されたこともあり、作品を出展した当事者の自信につながっただけでなく、一般の方の、ひきこもり支援への理解にもつながった。



ひきこもり支援ネットワーク構築事業 (MUGENプロジェクト)

実施日

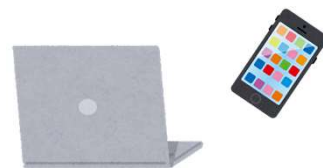
令和4年5月30日～令和5年2月28日

会場

ラメール三条(東山区)

事業実績

「すべての人が、孤立や孤独に苦しむことなく、つながりの輪の中で安心安全に暮らしていける場所および社会」を目指して2022年に発足した。令和4年度事業として、生きづらさに悩んでいた、引きこもり孤立しがちな人たちとつながるための窓口として、団体の理念や活動を紹介するホームページを作成し、Twitter等で周知した。ホームページを見て興味を持ってくれた当事者や支援者数人から連絡があり、交流が生まれ、活動の輪が少しずつ広がりつつある。



地域交流事業

(特定非営利活動法人 恒河沙母親の会)

実施日

毎週木・金曜日

会場

コミニテ食堂(上京区)

事業実績

当事者やその家族が、地域住民と交流するきっかけとして、令和3年4月からコミニテ食堂の活動を開始。当事者や家族には相談支援を行い、その中でコミニテ食堂につなげる工夫をした。

マッサージ器の設置、映画鑑賞や喫茶の実施など、交流しやすい居場所づくりのため環境を整備したことで、気軽に顔を出せる場づくりができた。

結果、地域住民との触れ合い、当事者同士・家族同士の交流が生まれ、年齢や立場に関わらず、挨拶が交わされる空間となり、孤独感・閉塞感の解消につながった。



SDGsの目標設定等を生かした、引きこもり状態にある方及びそのご家族の社会参加の場づくり (一般社団法人 ムーンライト)

実施日

令和4年8月27日、11月26日、令和5年3月25日

会場

京都経済センター(下京区)

事業実績

中小企業診断士や、
障害者支援施設の職員等を
講師に迎え、SDGsの観点から、自らの課題に
向き合い、働き方をじっくり考えられる
「働きがいとは?」、「働く意味を考えてみよう」、
「心と体の健康」をテーマとして、3回のセミナーを開催。

参加者からは「自分らしく働くことのヒントを得た」、「働くことを、もっとハードルを下げて考えて良いと気付き、心が楽になった」、「人との関わりひとつで人生が変わることが気付いた」等の感想があり、多様な発見があるセミナーとなった。



受入環境整備部門

アトリエ保健室 (HARETOKE)

実施日

令和4年5月13日～令和5年3月31日

会場

三条未来ファクトリー3号室(中京区)

事業実績

10～30代の困難を抱える若者を対象とし、当事者が何もせずに
過ごすことが出来る、また誰かと過ごしながらか否定されずに会話すること
が出来る居場所、「まちの保健室」のような役割を
目指した居場所を提供し、年間で94名の利用があった。
スタッフによる、公的支援の紹介や無料相談、
文通利用なども併せて実施した。

また、アトリエ保健室の利用者がスタッフや観客として
参加出来るイベント「ナイス美術館」を実施することで、
地域交流を図った。

